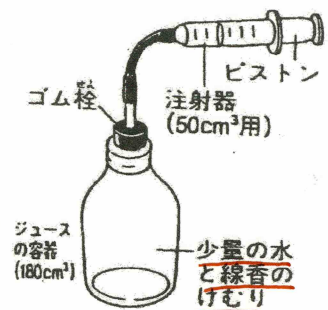


第2章 雲のでき方と前線

1. 雲のでき方

(1) 雲の発生の原理

	強くひいた時	強く押した時
空気の体積	膨張する	収縮する
空気の温度	下がる	上がる
容器の様子	くもる	くもりが消える



○ 雲の発生

① 空気が上昇する

←雲の発生するきっかけ(場所)

↓

② 気圧が下がる

←上にある大気が少ないから

↓

③ 空気が膨張する

←空気を押す力が弱くなるから

↓

④ 空気の温度が下がる

←膨張するのに熱を使うから

↓

⑤ 露点に達する

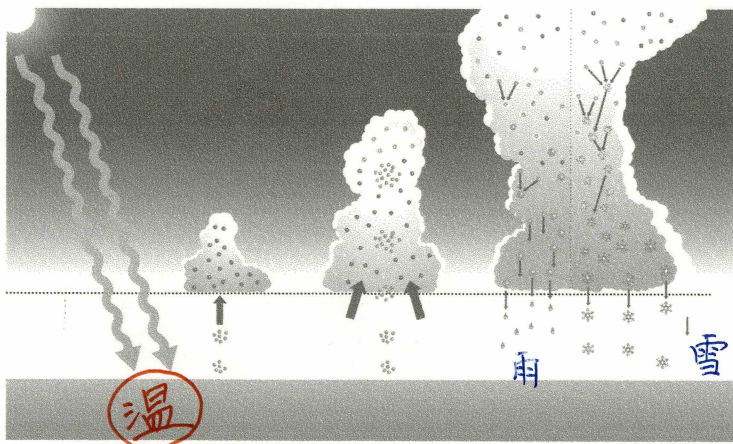
←雲の中の湿度は 100 %

↓

⑥ 水蒸気が水滴や氷の結晶となる(雲)

<雲のでき方の例>①太陽に地面がよく熱せられているところ

太陽



←雲のできる高さ

(2) 雲のできるところ (空気が 上昇 するところ)

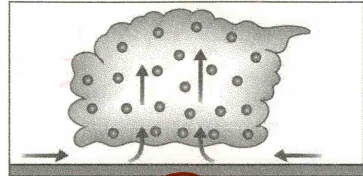
① 太陽に 地面がよく熱せられている ところ (左のページ下の図)

② 低気圧 の中心

③ 山の斜面 にそって 風が吹き上げる ところ

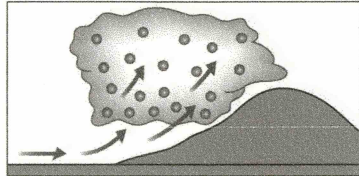
④ 暖気 と 寒気 が接しているところ (←これを 前線 という)

②



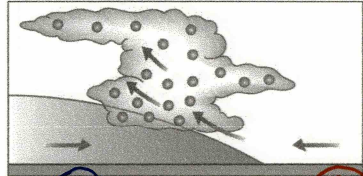
(低)

③



(山)

④



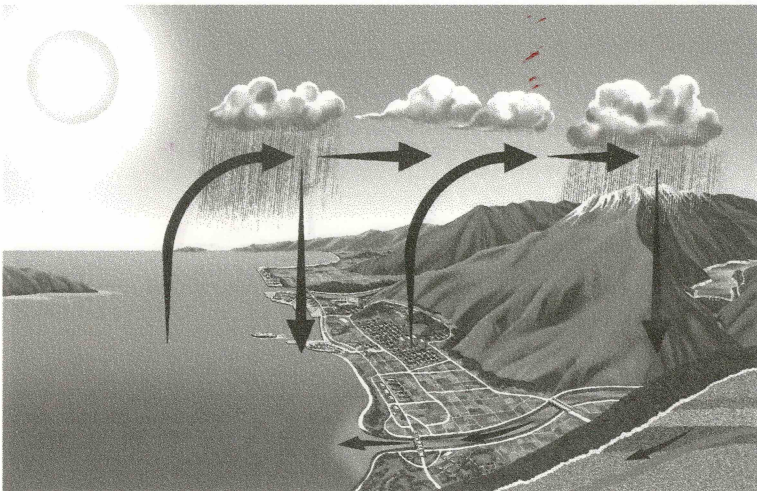
(寒)

(暖)

(3) 水の循環

水の循環

…地球上の水の一部は 太陽のエネルギー を受けて地球の表面と大気の間を絶えず循環している。



水の存在する割合

海 97.4 %

陸地 2.6 %

(氷河 2.0 %
地下水 0.6 %
その他 0.02 %)

大気 0.001 %